

事業報告書 (平成30年度)

事業名 AMDA-MINDS の活動から SDGs を学ぼう

- 「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」世界の実現に向けて -

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上 正道

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

a) Finds MINDS : SDGs を学ぼう

当団体が世界各地で取り組んでいる SDGs の目標達成につながる活動を、駐在員を含むスタッフが紹介する。開発途上国の現状や課題、その解決に向けた具体的な取り組みの例を通じ、SDGs を学ぶ機会を提供し SDGs に関連する啓発を行った。

1. 「国際協力の世界へようこそ」

～企業から NGO に転職、大学院から NGO に就職、NGO スタッフから社労士になった 3 人のストーリー～

日時：2018 年 10 月 25 日 (木) 18:30～20:00

会場：岡山国際交流センター5階 会議室 1 (岡山市北区奉還町 2-2-1)

参加者数：20 名

SDGs は個人としての共感度が高く、社会への貢献度が高い仕事に就きたい、関わりたいと考える人は増加傾向にあり、NGO/NPO への就職や、ボランティア・インターンに関する問い合わせも増えてきている。企業などで働いた経験や国際協力に携わりたいと思ったきっかけ、いま取り組んでいる業務での成功・苦労話などを、SDGs に関する取り組みに携わるスタッフらが報告を行った。



2. SDGs パーク ～遊ぼう、学ぼう、やってみよう。おかやまからの SDGs～

日時：2019 年 2 月 11 日 (月・祝) 10:00～16:00

会場：岡山国際交流センター7階 多目的ホール (岡山市北区奉還町 2-2-1)

主催：特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構

後援：岡山県、岡山市、岡山 ESD 推進協議会、生活協同組合おかやまコープ、SDGs ネットワークおかやま

(様式第8号)

参加・出展団体：岡山市 ESD 推進課、生活協同組合おかやまコープ、岡山学芸館高等学校、ダフェプロジェクト、岡山県 JICA デスク、SDGs ネットワークおかやま、AMDA・MINDS
参加者数：228 名

遊びと学びと体験を通じて SDGs や世界について触れられ、参加者が楽しみながら SDGs に関わることができるイベントとして開催した。また SDGs に取り組んでいる行政、企業、教育機関、NPO にも参加してもらい、世界の多様性と文化、各地の課題とその解決に向けた取り組み、岡山の事例などの紹介を、体験型ワークショップを交えて行った。

子ども向けの企画があったことで家族連れでの参加も多く、SDGs が幅広い世代に浸透するための機会にもなった。



b)



SDGs ミニ勉強会、国際協力なんでも相談会

1. SDGs ミニ勉強会

5 回開催し、計 21 名が参加。

① 5 月 12 日 (土) 15:00～16:00

SDGs ゴール 3 「すべての人に健康と福祉を」

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) についての学びと意見交換を実施。

6 月 23 日 (土) 15:00～16:00

② SDGs ゴール 4 「質の高い教育をみんなに」

青少年教育に焦点をあて、中米のホンジュラス、アフリカのシエラレオネに暮らす若者たちの現状と教育環境等について学び、意見交換を実施。

8 月 25 日 (土) 15:00～16:00

③ SDGs ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」

5つの都市（東京23区、千葉県船橋市、岡山市、バングラデシュ・ダッカ、ネパール・カトマンズ）を様々な角度から比較しながら、国際協力とまちづくりについての学びと意見交換を実施。

10月13日（土）15:00～16:00

④ SDGs ゴール 1「貧困をなくそう」～貧困の悪循環から脱却するために

貧困層の人が陥りやすい「貧困の悪循環」といわれる状況と、その悪循環から脱却するための支援活動（マイクロファイナンスによる収入向上や、家庭菜園を通じた食の多様化などの具体例を紹介。

10月27日（土）15:00～16:00

⑤ SDGs ゴール 10「人や国の不平等をなくそう」～カーストは何故なくならないのか？

ネパールを例に考える SDGs ゴール 10 達成の難しさ

ネパールの人々を取り巻く格差の現状とその改善に向けた取り組みや、まだ続く魔女狩りなどについての学びと意見交換を実施。

2. 国際協力なんでも相談会

4回開催し、計6名が参加

5月26日（土）、9月8日（土）、11月10日（土）、2月23日（土）

すべて10:00～17:00

NPO 法人向けの助成金、キャリア形成や大学院への進学、国際理解教育など、国際協力やSDGs に関するご相談に幅広く対応。



2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

a) 「Finds MINDS : SDGs を学ぼう」

国際理解教育を ESD の視点でとらえ直し、自ら実践できる具体例を以下の企画を通じて提供した。

1. 「国際協力の世界へようこそ」

国際協力への関わり方につき、3人のキャリアを具体的なロールモデルとして提供することで、ESD の視点にたった自らの実践へとつなげてもらえるよう促した。

2. SDGs パーク ～遊ぼう、学ぼう、やってみよう。おかやまからの SDGs～

あらゆる世代、多様な人々や団体が参加できるよう、ESD、SDGs に関する様々な取り組みを行っている岡山市 ESD 推進課、生活協同組合おかやまコープ、岡山学芸館高校、岡山県 JICA デスク、ダフェプロジェクトと協働する形でイベントを開催した。遊びや体験型ワークショップ、セミナー、報告会を通して世界の多様性や課題などを学ぶことで、世界のどこかで起こっている現実を自分のこととしてより深く理解でき、岡山と世界の関係や岡山で実践できる貢献を考えるきっかけを提供することができた。また参加者が開発途上国への支援となるボランティア活動を実践する場にもなった。

b) SDGs ミニ勉強会

ESD の視点である「課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと」を踏まえ、開発途上国の現状と課題を自らの課題として理解し、身近なところからの取り組みができるよう、SDGs 勉強会を開催した。当団体が各国で実施する社会開発プロジェクトは SDGs (持続可能な開発目標) の達成を目標にしており、ESD との関連も深い。勉強会ではそれらのプロジェクト通じて得た経験・知見を具体的な事例として紹介した。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

a) 「Finds MINDS : SDGs を学ぼう」

1. 「国際協力の世界へようこそ」

国際協力に関わる入口として国際協力に興味を持ったきっかけ、実際に国際協力を仕事にするまでのキャリアパス、駐在している国での業務内容、NGO/NPO の昔と今、国際協力に必要なスキルや、国内でもできる活動事例などについて紹介することにより、参加者の気づき、意識や行動の変容などを促すことができた。また参加者同士のコミュニケーションによって、より理解を深めることにもつながった。

来場者からも「国際協力に対するハードルが低くなった」「国際協力が大変身近に感じられるようになった」「自分も何かしたい、協力したいという思いが強くなった」などの感想が得られた。一般に、「国際協力に携わる人は××でなければならない。自分は××の経験も能力もないから、国際協力はできない」などと思われることが多い中、イベントを通じて、こうした一方的なイメージを払拭することができたのではないかと考える。

2. SDGs パーク ～遊ぼう、学ぼう、やってみよう。おかやまからの SDGs～

遊びと学びを一つのイベントの中で組み合わせることにより、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々に参加してもらうことができた。

報告会やパネル展示のほかに、手で触れ体験しながら、遊びながら現地の状況、課題、各国の文化や習慣などを知る体験型のイベントとして開催することができ、特に、小さな子どもたちも遊びを通じて学べる内容を準備することにより、従来はあまりアプローチできてこなかった家族連れなどの参加が多数あった。また、他団体にも協力を依頼し、出展し

(様式第8号)

てもらったことにより、多種多様なブースを設置することができた。来場者には、SDGsを身近に感じてもらえたのではないかと考える。

また出展者も、他団体のブースを訪問したり発表を聞いたりすることで、お互いに対する理解が深まり、SDGs達成に向けた機運を高めることにも貢献できたと考える。

なお、当日は山陽新聞およびOniビジョンによる取材があった

b) SDGs ミニ勉強会・国際協力なんでも相談会

少人数で行う勉強会、相談会であることにより、参加者同士のコミュニケーションがとりやすい環境で開催することができた。勉強会のテーマを毎回変えることで幅広い層の参加者を得ることができたと考える。また、相談会では、国際協力への携わり方や進路などキャリアに関する質問が多く出された。岡山市内でこのような相談窓口が開かれることはあまり多くないので、参加者にとって良い機会になったのではないかと考える。

4. 今後の課題と展望

SDGs パークのように、学びや展示だけでなく、それと一緒に遊びや体験などの要素を加えることによって参加者層の幅が広がり、啓発効果がより高くなることが分かった。今後はこれらの要素をより効果的に取り入れつつ、新たな啓発イベントの実施を企画していきたいと考えている。